

～「想い」は「声」に出さなきゃ伝わらない！～



若者未来カフェ 報告書

(令和4年5月28日開催)

令和4年7月

目次

1 はじめに

- 若者未来カフェとは P. 1

2 参加者からの意見等

- 参加者アイスブレイク P. 4
- 第1ピリオド 現在や近い未来の社会課題を共有しよう P. 4
私の暮らしの変化、どんな感じ？
- 第2ピリオド 私たちが住み（働き、通い）続けたい寝屋川市にするために P. 7
「課題解決のアイデア」と「大切にしたいポイント」
- 第3ピリオド 第2ピリオドをジブンゴトにしよう P. 9
プチ宣言～自分が今日から始めてみたいこと～
- 事務局による総括 P.10

3 ファシリテーターからのコメント P.12

4 おわりに P.13

【参考資料】

- 1 参加者アンケート結果 P.15
- 2 各テーブルの意見記録（ホワイトボード写真） P.20

1 はじめに

■ 若者未来カフェとは

○ 開催の目的

本市では、「みんなが誇れる住みよいまち」の実現を目指し、「みんなのまち基本条例」（以下「条例」といいます。）に基づき、市民がまちづくりの主役であることを基本として、協働のまちづくりを推進しています。

時代の変化等によって条例が形骸化することを防ぐとともに、実効性を確保するため、5年を超えない期間ごとに検証を行うこととしています。

「若者未来カフェ」は、この条例の検証に合わせ、若い世代の視点や価値観から本市の未来像、地域像を語り合ってもらい、時代に即した条例の見直しの参考とすることとともに、未来を担う若者がまちの発展のためにどのように関わり、一人ひとり何ができるかを考えるきっかけを作ることを目的として開催しました。

○ 実施手法

若者未来カフェは、令和3年8月に開館した市立中央図書館のマルチルームを会場とし、参加者同士がリラックスして意見交換ができるよう、カフェのような雰囲気の中で行いました。

また、若者たちが暮らしの中で感じている課題や、これからの寝屋川市に期待すること、若者たち自身がどのようにまちづくりに関わっていくか等について、より活発に意見やアイデアを出し、議論を深めてもらうために、意見を可視化して情報共有しながら会議を進める「ホワイトボード・ミーティング®（※）」の手法を用いて、意見交換を行いました。

※「ホワイトボード・ミーティング®」

ホワイトボードに参加者の意見を書き出し、可視化しながら会議を進める会議手法です。どんな意見も要約せずにホワイトボードに記し、オープン・クエスチョンで深い情報共有を進め、話し合っていることを可視化して明確にすることで、最終的に具体的な行動や活動方針を決めていきます。

参考文献：「ホワイトボード・ミーティング®でファシリテーターになろう 市民ファシリテーター編」（株式会社ひとまち ちゃんせいこ）

○ 開催概要

(日 時)

令和4年5月28日(土) 午後2時から午後5時まで

(場 所)

寝屋川市立中央図書館 マルチルーム

(対象者)

寝屋川市に住み、働き、学び又は活動する18歳以上39歳以下の方

(参加者)

区 分	参加人数	うち市内在住者
学 生	5	3
社会人	11	5
合 計	16	8

(会議内容)

<第1ピリオド>

～現在や近い未来の社会課題を共有しよう～

- ・私の暮らしの変化、そこから見える強み(利点)と課題

<第2ピリオド>

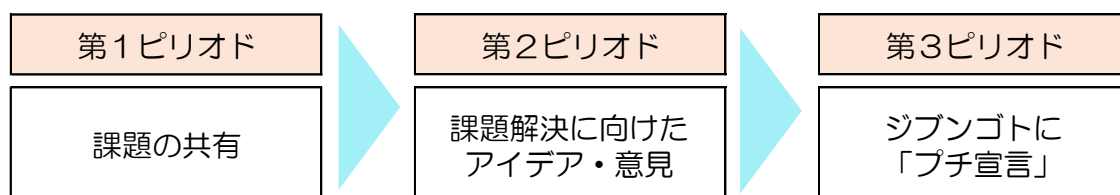
～私たちが住み(働き、通い)続けたい寝屋川市にするために～

- ・「課題解決のアイデア」と「大切にしたいポイント」

<第3ピリオド>

～第2ピリオドをジブンゴトにしよう～

- ・自分が今日から始めてみたいことをプチ宣言



○ ファシリテーター

氏名：畑中 久代 氏

プロフィール：cocokara 代表 (ホワイトボード・ミーティング®認定講師)

京都女子大学法学部 非常勤講師 (前期) 他

○ タイムスケジュール

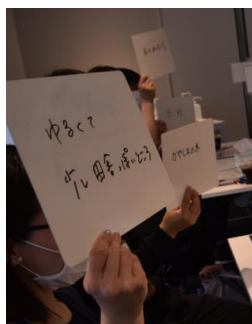
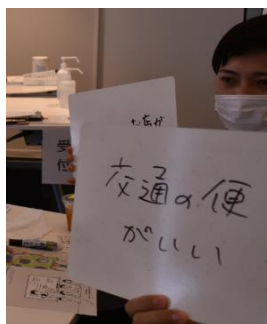
時間	内容
14:00～	事務局から開会のあいさつ
14:05～	自己紹介、今日のゴールとルールの共有
14:10～	参加者アイスブレイク
14:20～	■ 第1ピリオド ～現在や近い未来の社会課題を共有しよう～
14:35～	<ul style="list-style-type: none"> ・本市が直面する課題や「みんなのまち基本条例」の説明 ・ホワイトボード・ミーティング®の説明・練習
15:00～	<ul style="list-style-type: none"> ・私の暮らしの変化、どんな感じ？ ・強み（利点）と課題（困っていること）を5つあげよう ・グループごとに代表者が強みと課題を発表
15:50～	休憩
16:05～	■ 第2ピリオド ～私たちが住み（働き、通い）続けたい寝屋川市にするために～ ・「課題解決のアイデア」と「大切にしたいポイント」
16:35～	■ 第3ピリオド ～第2ピリオドをジブンゴトにしよう～ ・自分が今日から取り組んでみたいこと、やってみたいこと、始めてみたいことをプチ宣言
17:00	閉会



2 参加者からの意見等

■ 参加者アイスブレイク

初対面の参加者同士の緊張をほぐすため、まず「寝屋川市の好きなところ」をミニホワイトボードに書いて、発表してもらいました。



○ 寝屋川市の好きなところは？

主な意見	
・ 交通の便がよい	・ 夜でも明るい（駅前など）
・ おいしいお店が多い	・ 商店街がある
・ ゆるくて少し田舎っぽいところ	・ 萱島の木
・ 桜が多い	・ まちがキレイ
・ はちかづきちゃん（ゆるキャラ）	・ 大学がある

参加者からは、交通の利便性、市内商業、桜のある街並み、マスコットキャラクターなど、本市の様々な魅力についての意見が出されました。

■ 第1ピリオド ～現在や近い未来の社会課題を共有しよう～

○ 私の暮らしの変化、どんな感じ？

事務局による本市が直面する課題や「みんなのまち基本条例」の説明と、ファシリテーターによるホワイトボード・ミーティング®の説明・練習を行った後、4人1グループで、話し手役と聞き手役を順に交代で行い、参加者が最近感じる「暮らしの変化」について、自身のエピソード等を交えて、意見を出し合いました。

また、意見として出された「暮らしの変化」を踏まえ、本市の未来における「強み＝利点」や「課題」について各グループで話し合い、参加者全員で共有しました。

各グループの主な意見は以下のとおりです。

A	<p>暮らしの変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナで外出しづらくなった ・学校がオンラインになり、学校行事がなくなった ・人と話すことがなくなった、関わりが減った ・新型コロナ対応で仕事が増えた ・動画配信サービスを利用するようになった ・就職して様々な世代の人と関わるようになったが、ジェネレーションギャップはあまり感じなかった 	<p>強み（利点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン化が進み、離れた人との情報共有や体験ができるようになった ・オンラインの利用が増えた ・プライベートの時間が増えた ・動画配信など新しいコンテンツの利用 ・若い世代の多様な価値観に対する受容性の高さ <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外出できず、楽しみがなくなった ・友人が少ない（増えない） ・人と話すことがなくなった
B	<p>暮らしの変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナで外出が減った ・リモートの利用が増えた ・オンライン会議ツールを独学で勉強した ・マスクで顔がわからない、挨拶もしにくい ・地域のイベントがなく、近所付き合いが減った ・通勤がなくなり、会社付き合いも減った ・新しい友人ができず、人間関係が広がらない ・運動不足になった ・小さい企業、店舗の廃業が進んでいる 	<p>強み（利点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつでも、どこでもリモートで人と会える ・プライベートな時間が増えた ・仕事や勉強に活かせるスキルの向上 ・今いる友人とより仲良くなれた ・新型コロナで発展した分野もある <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人との関わりが減少した ・友人ができない ・地域、近所付き合いの希薄になった ・新型コロナによる制限がある社会
C	<p>暮らしの変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナで人と会う機会が減った ・SNS 上での人のつながりが増えた ・動画配信サービスを利用するようになった ・機材を揃えて、動画配信を始めた ・オンラインヨガに誘われて始めた ・友人と動画を共有したり、ゲームをする時間が増えた 	<p>強み（利点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインを通して、様々な世代と遊ぶ機会が増えた ・動画配信など新しい事へのチャレンジ <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインが苦手な年代や人がいる ・新型コロナを常に意識した窮屈な社会 ・運動不足

D	<p>暮らしの変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナで外に出なくなった、人と会う機会が減った ・オンラインでつながることの方が増えてきた ・家から出なくなり、家族団らんの時間が増えた ・色んなところで「SDGs」をよく見たり聞くようになった ・育児を通じて、社会のジェンダーの認識が変化しているように思う ・商店街がシャッター通りようになっており、もっと盛り上がってほしい 	<p>強み（利点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プライベートな時間が増えた ・家族との仲が深まる ・ジェンダー平等の進展 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人との関わりが減少した ・リモートは対面と比べうまく伝わらないなど不便さを感じる ・コミュニケーションが少なく、孤独が深まっている ・育児休暇など、まだまだジェンダー平等の理解が進んでいないように思う
---	--	--

※ 各グループで出た意見等が書かれたホワイトボードは、参考資料に掲載しています。

意見を整理すると・・・

参加者自身の身近で起きている変化を通して、浮かび上がってきた社会課題については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響を特に大きく受ける中で、おおむね以下のとおり整理することができます。

【若者たちが感じる社会の変化・課題】

- 1 人とつながる機会の減少
- 2 近所付き合いなど地域との関わり減少
- 3 テレワークやオンライン授業などデジタル技術を活用したオンライン化の進展
- 4 SDGs やジェンダーレスなど多様性を受け入れる社会の形成
- 5 まちの活気・活力の停滞（産業や商店街等の活性化含む）

■ 第2ピリオド

～私たちが住み（働き、通い）続けたい寝屋川市にするために～

第2ピリオドでは、第1ピリオドで出た意見を踏まえて、同じ4人1グループで、「私たちが住み（働き、通い）続けたいまちにするためにはどうしたらよいか」をテーマに「課題解決のアイデア」と「大切にしたいポイント」について、意見交換を行いました。

参加者から出された主な意見を、第1ピリオドの「若者たちが感じる社会の変化・課題」に対応させて整理すると、以下のとおりです。

【社会の変化・課題】 1 人とつながる機会の減少	
課題解決のアイデア	大切にしたいポイント
<ul style="list-style-type: none"> ・人とのコミュニケーションが取れる「場」が必要 ・居場所づくりにもなるマルシェなどを、市内の様々な場所で開催する ・声を出さないイベントなど、新型コロナでも参加しやすい形式で開催 ・打上川治水緑地などで、自然を楽しめるキャンプの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・人とのつながり、コミュニケーションの創出 ・対面での居場所づくり ・地域の活性化につながるようにしたい ・小さな子どもがいる子育て世代でも、気軽に参加できるような場をつくる ・個人のライフスタイルを尊重
【社会の変化・課題】 2 近所付き合いなど地域との関わりの減少	
課題解決のアイデア	大切にしたいポイント
<ul style="list-style-type: none"> ・地域が主体のイベント等の実施 ・目に見える地域活動の実施（小学校でのイルミネーションなど） ・地域活動において、リモートなどオンラインをより活用していく 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のつながりが切れないう、継続した取組の実施 ・他市の人に寝屋川市を知ってもらう機会の創出 ・担い手の継承、確保 ・新たな担い手の候補になる他市の人や外国人など、多様な人の受入れが必要

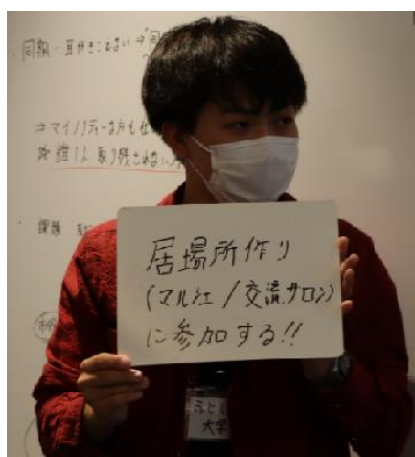
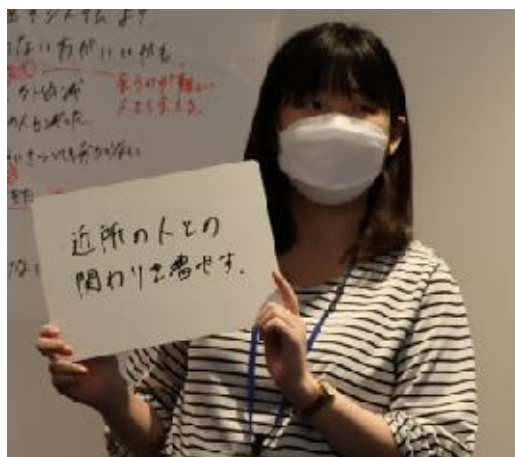
【社会の変化・課題】	
3 テレワークやオンライン授業などデジタル技術を活用したオンライン化の進展	
課題解決のアイデア	大切にしたいポイント
<ul style="list-style-type: none"> ・行政手続のオンライン化 ・行政の審議会などネット中継 ・行政の会議にオンラインで参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の声を、よりリアルタイムで届ける ・行政の手続を、オンラインでも、対面でも、どちらも選択することが可能であることが必要 ・選択ができるという多様性が大切である ・デジタル化だけに寄せることなく、人の温かさも求められている ・どのような世代でも利用しやすい工夫が必要
【社会の変化・課題】	
4 SDGs やジェンダーレスなど多様性を受け入れる社会の形成	
課題解決のアイデア	大切にしたいポイント
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代や高齢者、障害のある方など、みんなが持っている悩みやコンプレックスを話せる「場」をつくる ・多様な価値観を持った人が、意見を出し合える「場」の創出 ・相談しやすい環境の構築（声かけなど） ・子育て世代に優しいまちづくり ・働きながら子育てがしやすくなるフォロー制度があればよい ・病児保育施設を増やせるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な価値観を持った人が意見を出し合えることが重要 ・匿名でも参加できるような仕組み ・見た目だけではわからない、いろいろな悩みを抱えた人、マイノリティの人も交流できることが大切
【社会の変化・課題】	
5 まちの活気・活力の停滞（産業や商店街等の活性化含む）	
課題解決のアイデア	大切にしたいポイント
<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業の魅力発信や、ビジネスマッチング、レシートクーポン事業のような消費促進の取組 ・レンタルスペース設置など、今あるものの再活用 ・人が集まる場所を作る（川、公園、祭り、商店街、インスタ映えするような場所） ・JR 沿線の発展が必要 ・電動自転車の活用（レンタルサービスなど） ・交通（バス）の利便性向上 ・道路を広くきれいに ・ゴミ箱を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ・関わる人みんなが WIN-WIN であること ・新しく何かを作る前に、今あるものを有効活用 ・商店街をもっと若い人向けに ・高齢化を見据えたまちづくり

■ 第3ピリオド ～第2ピリオドをジブンゴトにしよう～

最後に、第2ピリオドで出されたアイデア等を実現するため、参加者自身が今日から始めてみたいことをミニホワイトボードに書き、参加者全員で輪になり、「プチ宣言」として一人ずつ発表しました。

○ プチ宣言

～自分が今日から始めてみたいこと～
居場所づくり（マルシェ/交流サロン）に参加する
近所の人との関わりを増やす
近隣の人とのコミュニケーションを積極的に！
近所に住む人で顔見知りの人を今まで以上に増やす
マイノリティの人たちの話を聴いて、多様性について考える！
様々な人のことを認められるように心がける！
隣にいる人の話を聴く
色々な人の意見を聴く
たむろしている人たちに話しかける
誰も否定しない、なんでも話せるオンラインサロンを
市の情報発信に興味を持つ
打上川治水緑地で行う小規模なキャンプ企画 全世代が楽しめるような企画を
使われていない施設をリフォームしていろいろな人の交流空間を作りたい！
寝屋川市内でお金を使う機会を増やす
地元企業での消費を増やす（買い物や食事など）

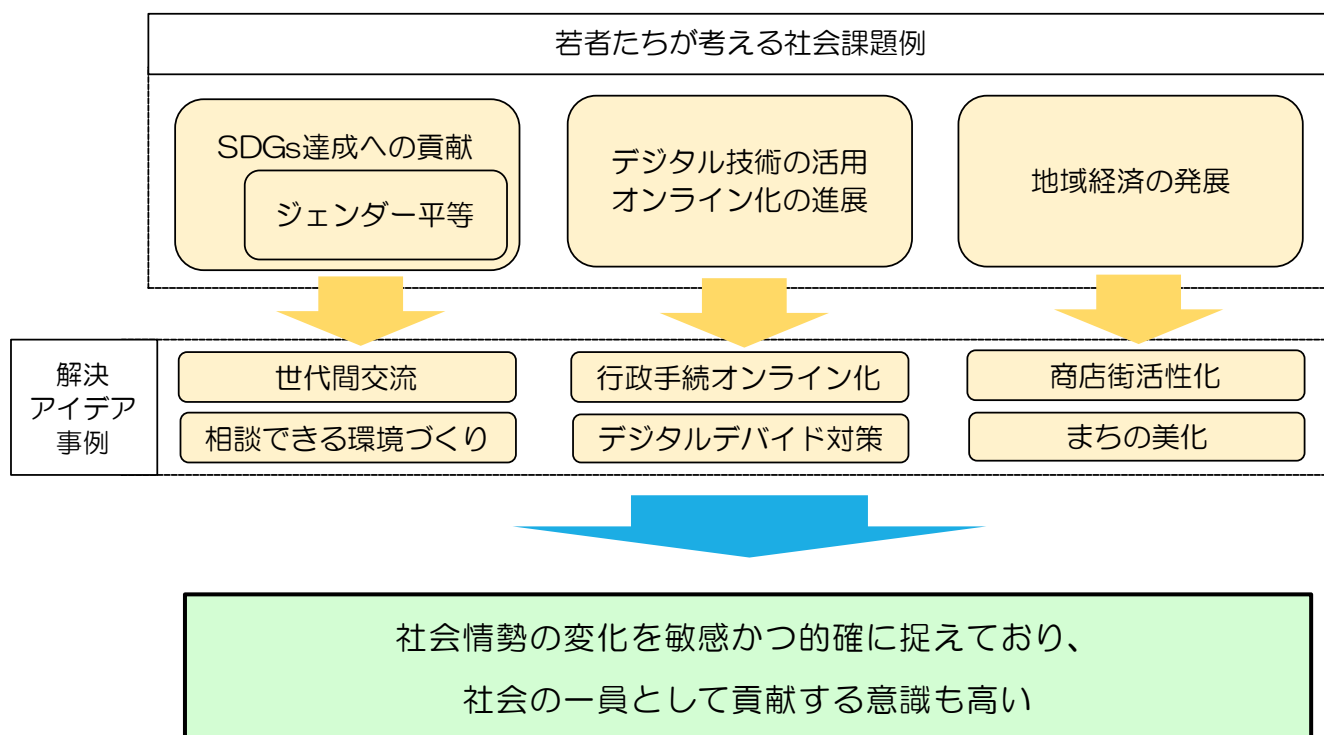


■ 事務局による総括

若者未来カフェでは、社会人や学生、子育て中の方など、社会的立場や生活環境が異なる若い世代同士が、自由闊達に意見交換を行いました。

「将来の寝屋川市」を考えるに当たり、自身の身の回りで起こっている変化から「社会課題」を抽出すると、「SDGs達成への貢献(ジェンダー平等を含む)」や「デジタル技術の活用・オンライン化の進展」、「地域経済の発展」など、我が国が今後乗り越えていかなければならない社会課題に関する意見が多く出されたところであり、若者たちが社会情勢を敏感かつ的確に捉えていることが見て取れます。

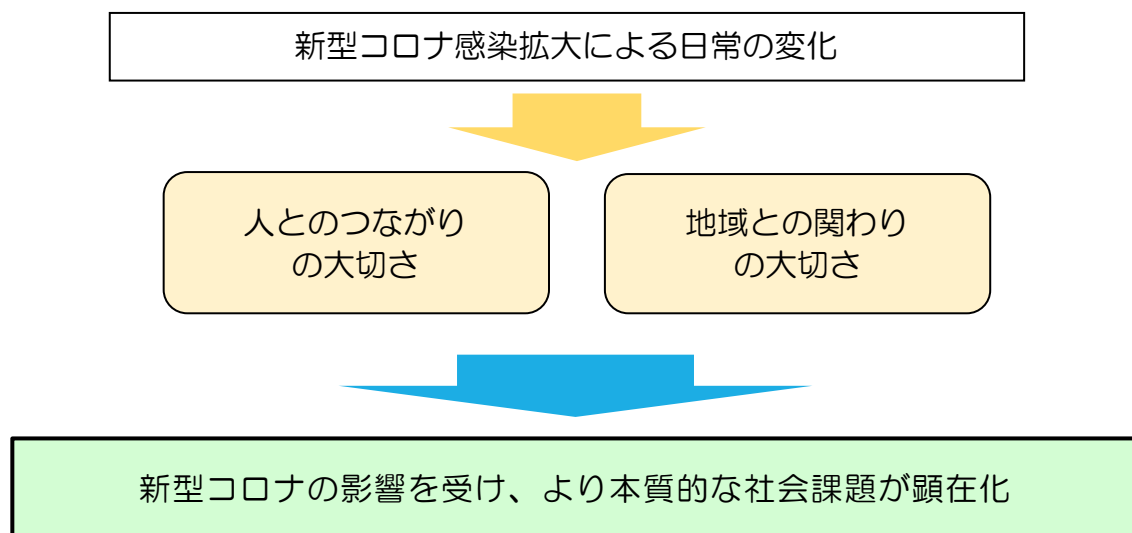
また、これらの社会課題を解決するアイデアの検討では、世代間交流や相談できる環境づくり、まちの美化など、若者らしい柔軟な発想による様々なアイデアが出されました。中には、「若者自身が、課題解決の取組に積極的に関わりを持つことが大切」といった意見もあり、若者たちの社会貢献に対する意識の高さを確認することができました。



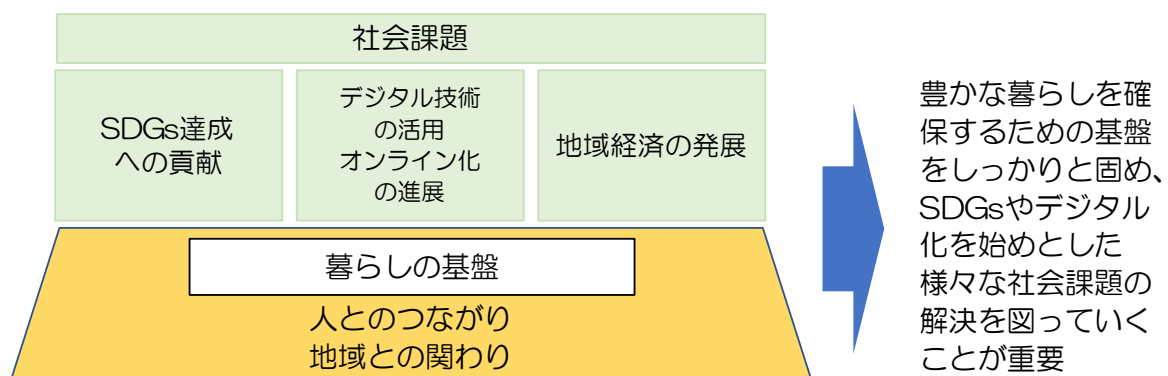
他方、新型コロナウイルス感染症拡大による影響を受け、若者たちの日常生活は大きく変化しました。仕事や授業がリモートになり、各種のイベント等が中止となるなど、人同士が直接的に関わりを持つことができない時期が長期にわたり続きました。

こうした状況を背景に、今回の会議では、「人とのつながり」「地域との関わり」といった暮らしの基盤にある、より本質的な事柄を社会課題とする若者の意見が多数を占めました。

これまで現代社会においては、他者に対する無関心や地域コミュニティの希薄化などが社会的な課題として挙げられてきました。新型コロナウイルス感染症の拡大により、人と人とのつながりが強制的に断ち切られたことで、我々は改めて「人とのつながり」「地域との関わり」が暮らしの質を上げるために極めて重要であるということ、を、期せずして再認識する機会になったと言えるでしょう。



若者たちが思い描く「将来の寝屋川市」を実現していくためには、「人とのつながり」「地域との関わり」の重要性を改めて見つめ直し、豊かな暮らしを確保するための基盤をしっかりと固めた上で、SDGsやデジタル化を始めとした様々な社会課題の解決に向け、若者の考えや行動力を活かしたまちづくりを進めていかなければならないと言えます。



3 ファシリテーターからのコメント

平成 20 年 4 月に施行された「みんなのまち基本条例」の検証に当たり、次代を担う若い世代の皆さんの意見を取り入れたいという市の姿勢、そして、緊張しながらも率直に考えを述べる参加者の皆さんの姿勢にまずは敬意を表します。

第 1 ピリオドでは、身近な暮らしの変化から見える現在や近い未来の社会課題を共有しました。この段階で、「多様なライフスタイル」、「コミュニケーション」、「デジタル化」、「SDGs」など、条例に関係する本質的な課題がいくつか垣間見ることができました。第 2 ピリオドでは、それらの強みや課題をこれからのまちづくりに活かし、私たちが住み続けたいまちにしていくためのアイデアを話し合い、続く第 3 ピリオドでは「一人ひとりが今日からやってみたいこと」を述べていただきました。皆さんがご自分の実生活のことを意識して宣言してくれたことが印象的でした。

想いを言葉にすることで、まちづくりに主体的に関わっていこうという意気込みが伝わり、将来を担っていくポテンシャルを感じることができました。デジタル化による急速な生活様式の変化にも対応し、また柔軟な考えを持ち、多様性を受け入れることができる「若者」が未来を切り拓く。そのためにはあらゆる世代の人々が対話できる多様な場が必要です。そのような場から、条例に記された「協働」の理念だけでなく「行動」がこれまで以上に若い世代の皆さんにも広がってほしいと思います。

そして何より「若者未来カフェ」に集まった皆さんの「想い」、そしてここから踏み出される一歩が、いつまでも住み続けたいと思える寝屋川市のまちづくりに活かされることを願っています。

畑 中 久 代

4 おわりに

若者未来カフェは、「みんなのまち基本条例」の検証に当たり、若者の意見を反映させた条例の見直しにつなげたいとの思いから、若い世代に本市の未来像、地域像を語り合っていたく場として開催しました。

ファシリテーターの進行の下、参加者の意見をホワイトボードに書き出し、情報共有をしながら、若者らしい自由闊達な意見交換が行われました。若者たちの本市への想いや、社会課題の認識、新型コロナウイルス感染症による生活と意識の変化など、今の若い世代が感じる率直な考えを聞くことができ、とても有意義なイベントとなりました。

参加者同士で熱心に意見交換をしている若者の姿は、今後の寝屋川市を担う世代として、非常に頼もしく、また、誇らしく感じました。

10年先、20年先、そしてその先も多くの方に寝屋川市に「住みたい・住み続けたい」と思っただけの魅力あるまちに発展し続けていくために、本イベントでいただいた皆様からの貴重な御意見は、「みんなのまち基本条例」の検証委員会において参考とさせていただくとともに、本市行政の関係所属で共有し、今後の施策立案にも活用させていただきます。

最後に、本イベントに参加していただいた皆様を始め、このイベントの開催に当たりまして、多大な御尽力をいただきました関係者の皆様に、心から深く感謝申し上げます。

経営企画部 企画一課

參考資料

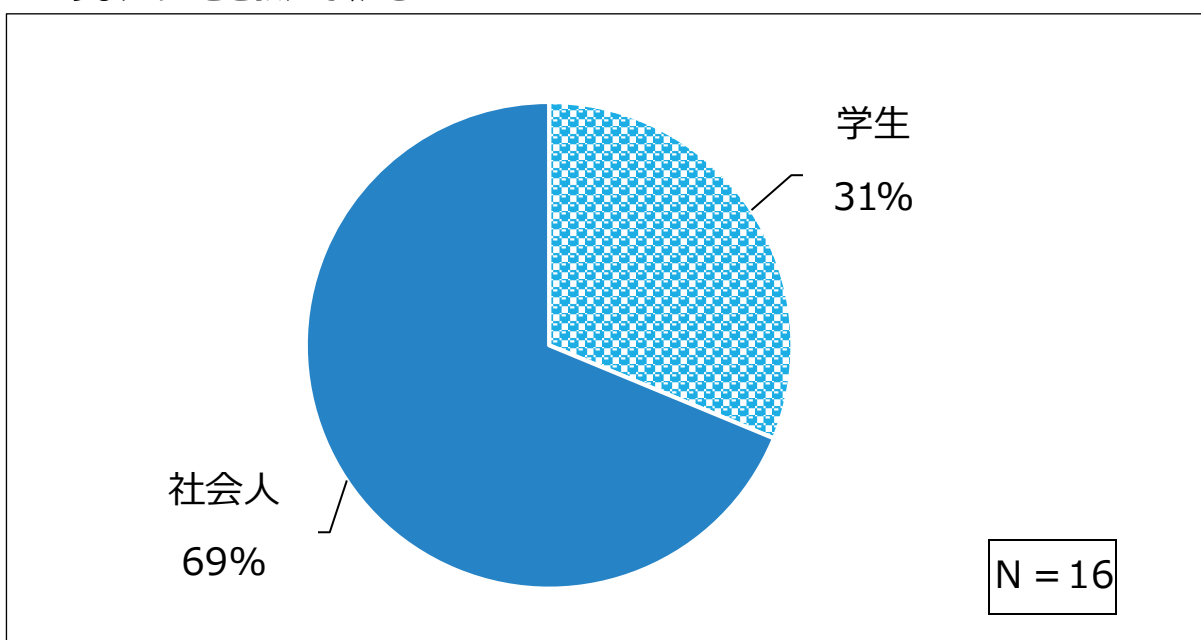
1 参加者アンケート結果

「若者未来カフェ」の参加者全員に対し、「みんなのまち基本条例」やイベントへの感想についてのアンケートを行いました。

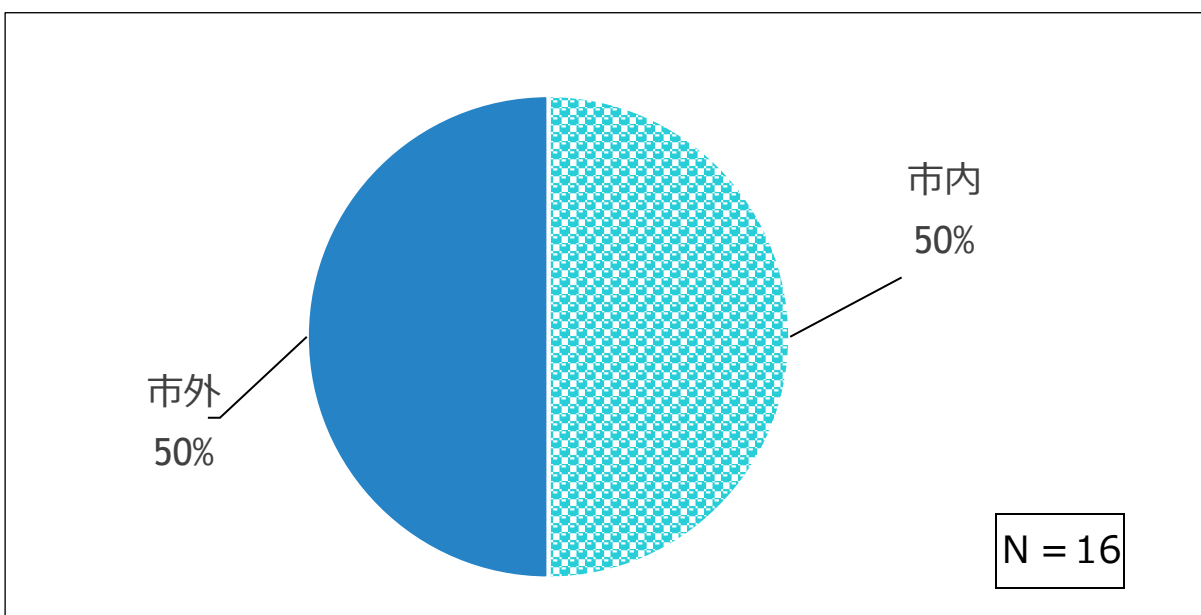
〔アンケート結果算出方法について〕

- ・ 円グラフ右下のNは、構成比を表示する際の母数を示しています。
(複数回答があったため、一部の質問項目で回答者数を超えた母数となっています。)

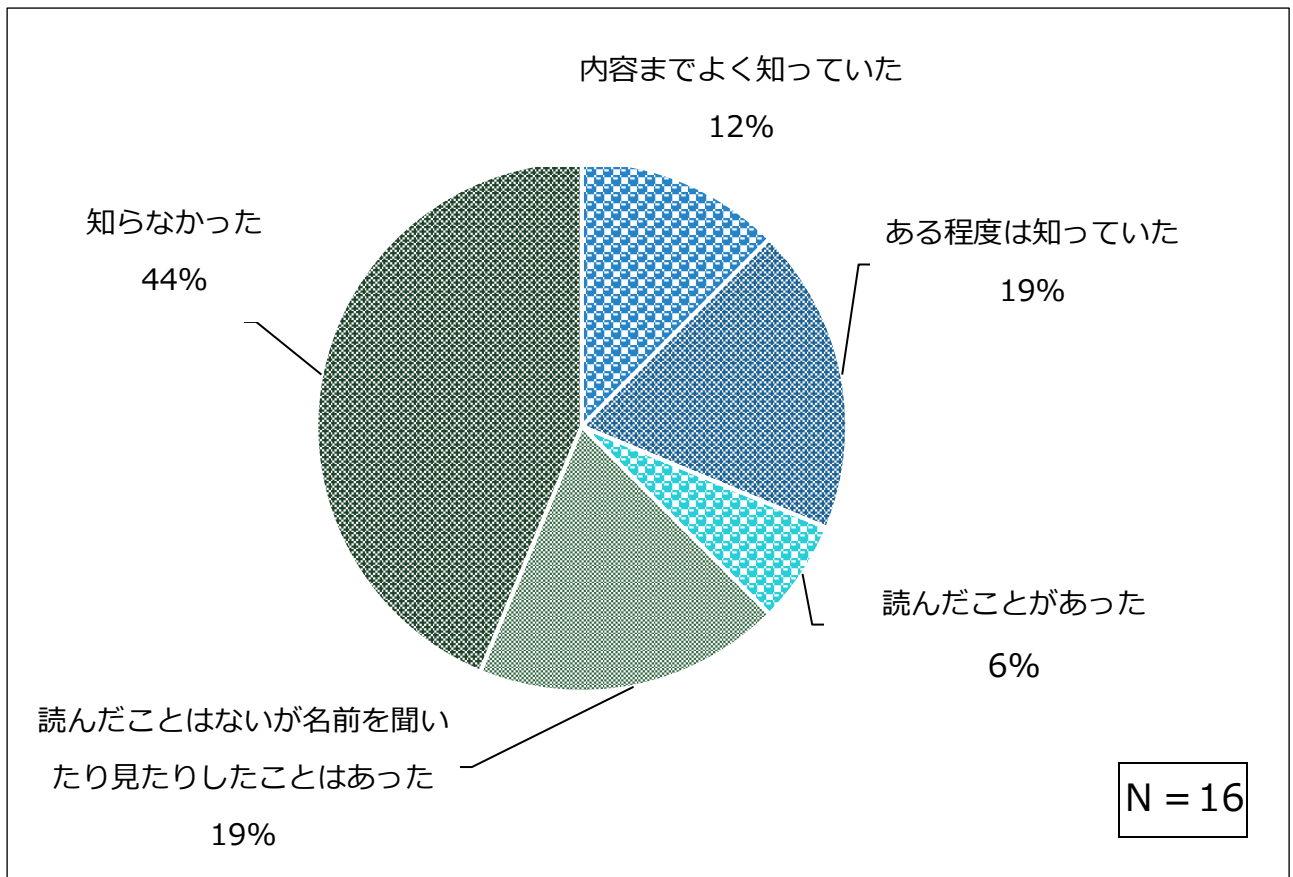
■ あなたのことを教えてください



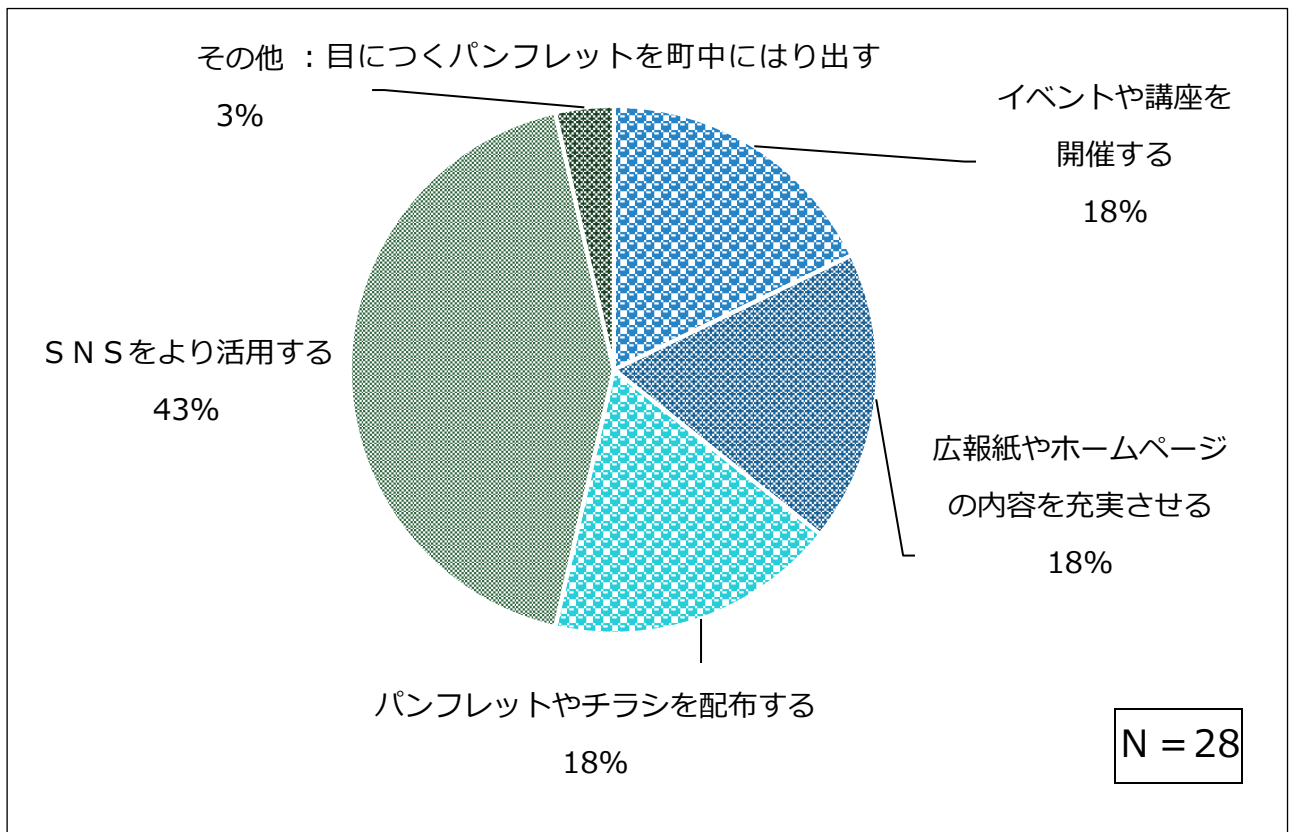
■ あなたのお住まいはどちらですか



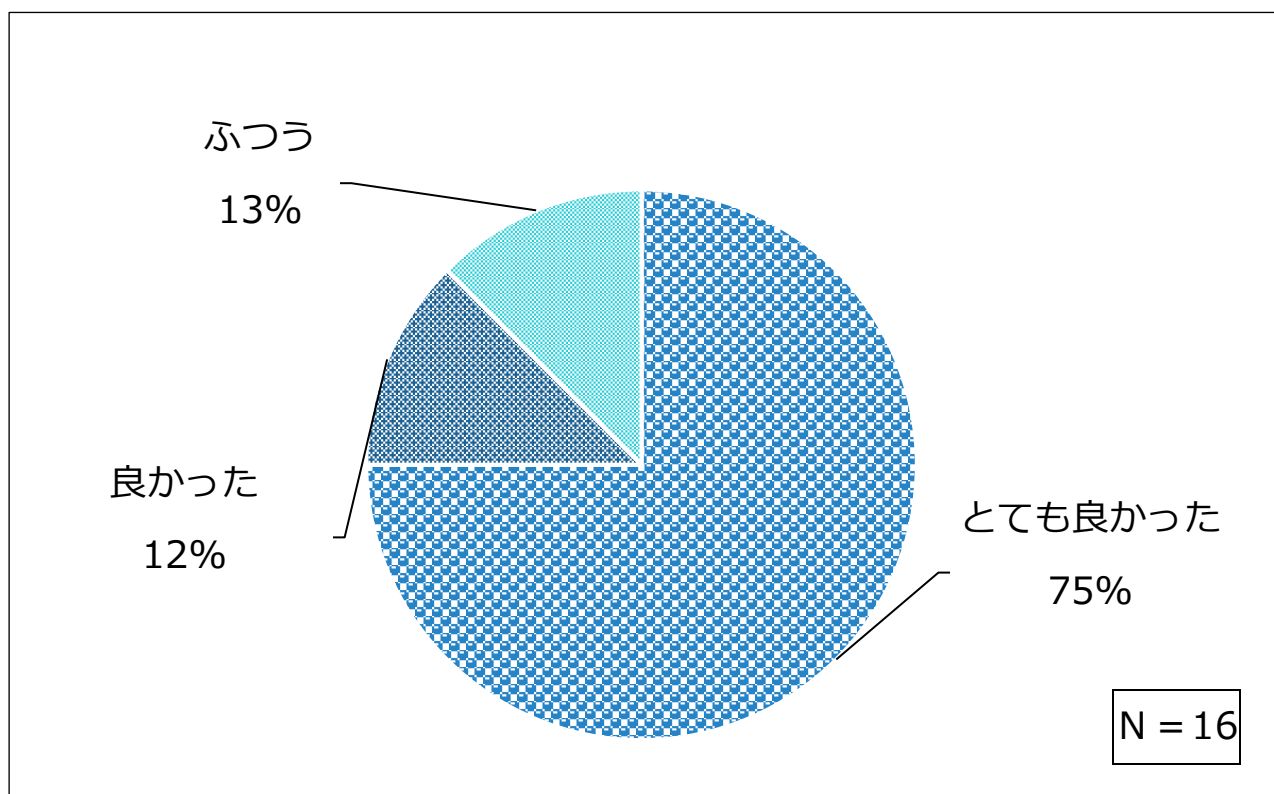
■ 本イベント前に、「寝屋川市みんなのまち基本条例」を知っていましたか



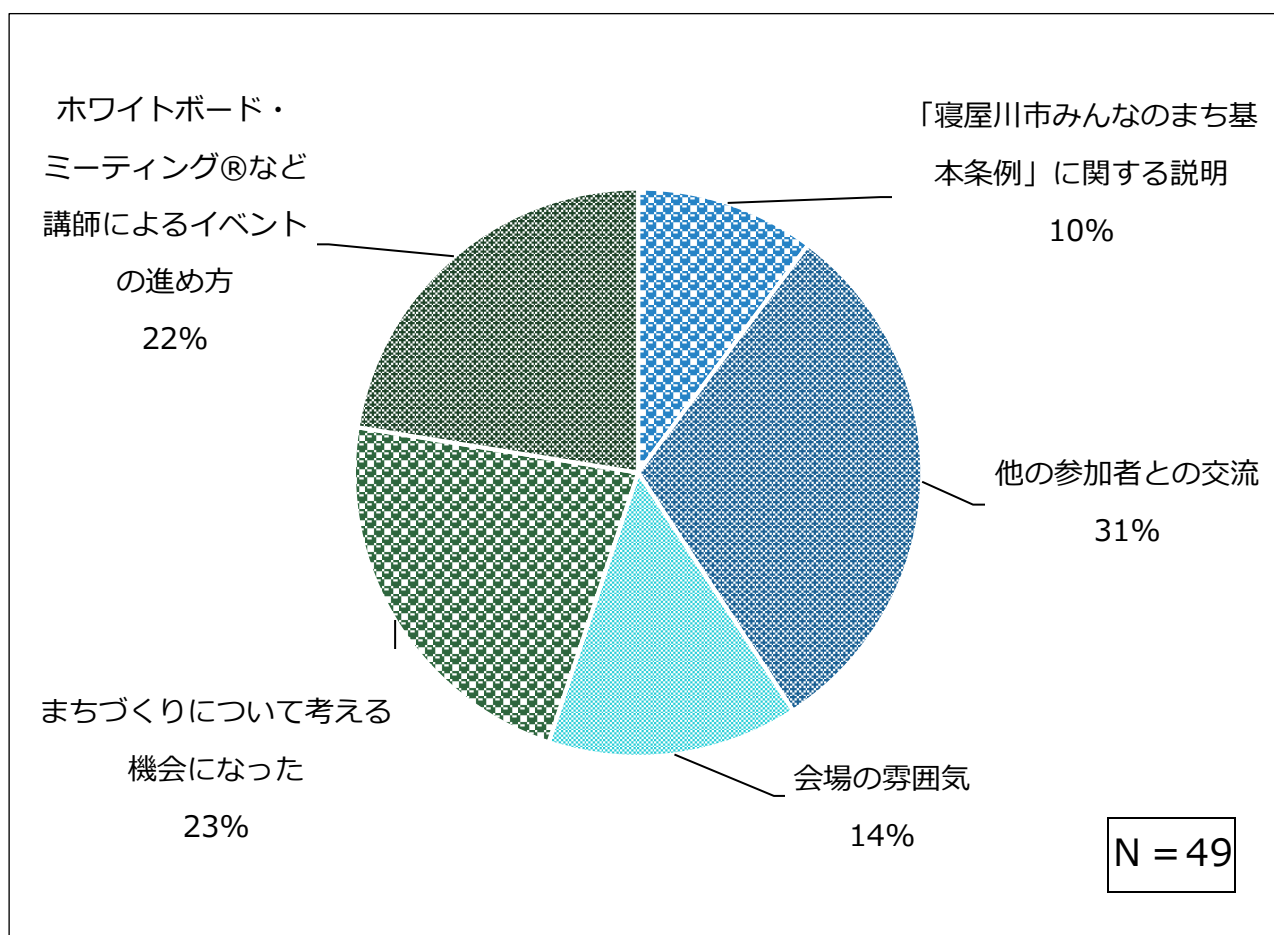
■ 市民の皆さんに「寝屋川市みんなのまち基本条例」を知ってもらうためには、どのような方法が効果的だと思いますか。2つまで選んでください



■ 本イベントの満足度を教えてください



■ 本イベントの良かった点は何ですか（複数回答）



■ 本イベントに参加して、気付いたことや気持ちの変化などがあれば、記入してください

主な回答意見

- ・人とのつながりの大切さに改めて気付いた。
- ・市の取組に興味を持つきっかけになりました。
- ・みんなで意見を出し合えば、たくさんの意見となり、影響を与えるきっかけになると感じた。
- ・自分も、もっと市に関心を持とうと思いました。
- ・課題解決に当たり、行政頼みにするのではなく、市民、住民の小さなことでもコツコツやっ
ていけば、課題解決できると思う。
- ・寝屋川市についてあまり知りませんでしたが、グループの人たちや市職員の皆さんが親切
に教えてくださったので、市について多く知ることができました。
- ・他の参加者との交流で意見が多様であったので、聞いていて勉強になりました。
- ・最近の学生の意見が聞けたこと。勝手なイメージでコミュニケーションが苦手だと思ってい
ましたが、全くそんなことはなく社会人の自分よりも話していたこと。
- ・ホワイトボードに書き出すことで、意見が見える化し活発な意見交換がしやすいというこ
とを学びました。今後も活用していければと思いました。
- ・参加前は不安が大きかったですが、皆さんの意見を聞きポジティブな気持ちになりました。
- ・同世代の寝屋川市に対して考えていることが知れて良かった。今後も真剣に考えていき
たい。
- ・自分と違った考えの人もいて、すごく勉強になりました。

■ 本イベントの感想や要望など

主な回答意見

- ・今日のイベントが、市政にどのような影響があったのか、興味を持って市のホームページや
広報誌を見たいと思います。
- ・お茶等がとても良かったです。
- ・普段関わることがない方々と交流ができて非常に刺激になりました。
- ・このようなイベントがあれば、寝屋川市にある実際の問題や課題もくみ取りやすいと思う。
- ・学生、社会人など様々な環境の人の話を聞いて良かった。
- ・すごく楽しかった。緊張して不安だったが今となってはもっとこういう機会があってほしいと思
った。また参加したい！！
- ・楽しく真剣に話ができて満足しています。ありがとうございました。
- ・ホワイトボード・ミーティング®が、自身の職場でも生かせるものだと感じたので、深く興味
を持てた。次回もこういったイベントがあれば参加したい。

若者未来カフェ アンケート

R4.5.28 (土)

- 1 あなたのことを教えてください。あてはまるものに○をしてください。
ア 学生 イ 社会人 ウ その他 ()
- 2 あなたのお住まいはどちらですか？あてはまるものに○をしてください。
ア 寝屋川市内 イ 寝屋川市外
- 3 本イベント前に、「寝屋川市みんなのまち基本条例」を知っていましたか？
あてはまるものどれか1つに○をしてください。
ア 内容までよく知っていた イ ある程度は知っていた ウ 読んだことがあった
エ 読んだことはないが名前を聞いたり見たりしたことはあった オ 知らなかった
- 4 市民の皆さんに「寝屋川市みんなのまち基本条例」を知ってもらうためには、どのような方法が効果的だと思いますか。あてはまるもの2つまで○をしてください。
ア イベントや講座を開催する イ 広報紙やホームページの内容を充実させる
ウ パンフレットやチラシを配布する エ SNS をより活用する
オ その他 ()
- 5 本イベントの満足度について、あてはまるものどれか1つに○をしてください。
ア とても良かった イ 良かった ウ ふつう
エ あまり良くなかった オ 良くなかった
- 6 本イベントの良かった点は何ですか。あてはまるもの全てに○をしてください。
ア 「寝屋川市みんなのまち基本条例」に関する説明 イ 他の参加者との交流
ウ 会場の雰囲気 エ まちづくりについて考える機会になった
オ ホワイトボード・ミーティングなど講師によるイベントの進め方
カ その他 ()
- 7 本イベントに参加して、気付いたことや気持ちの変化などがあれば、記入してください。

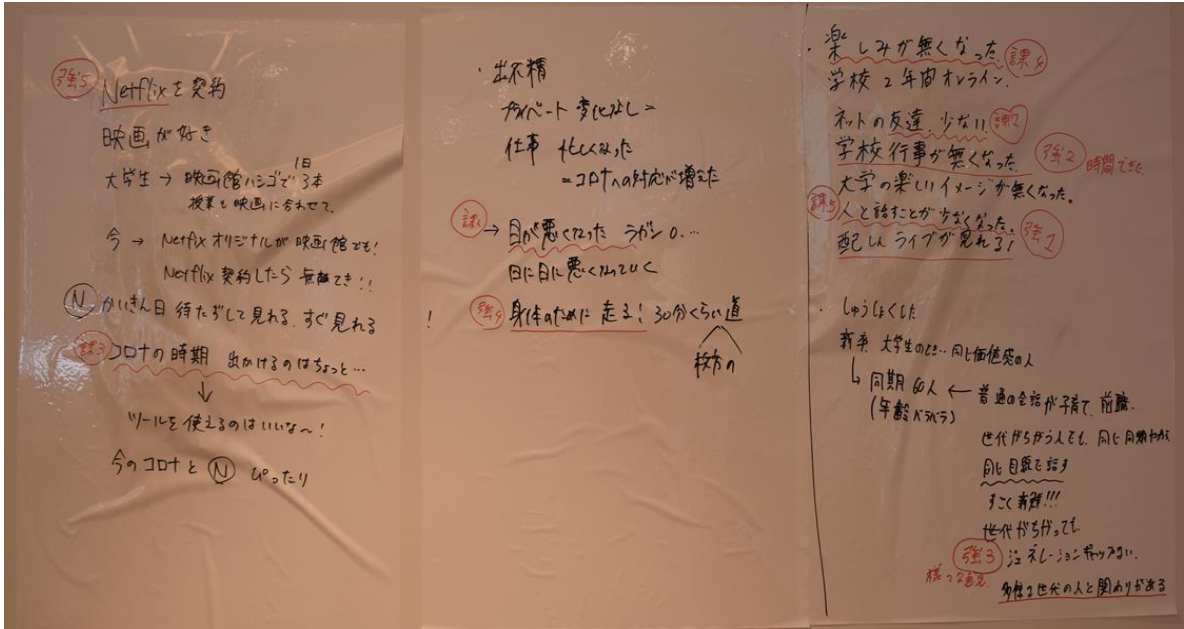
- 8 本イベントへの感想や要望など、ご自由に記入してください。

ありがとうございました。

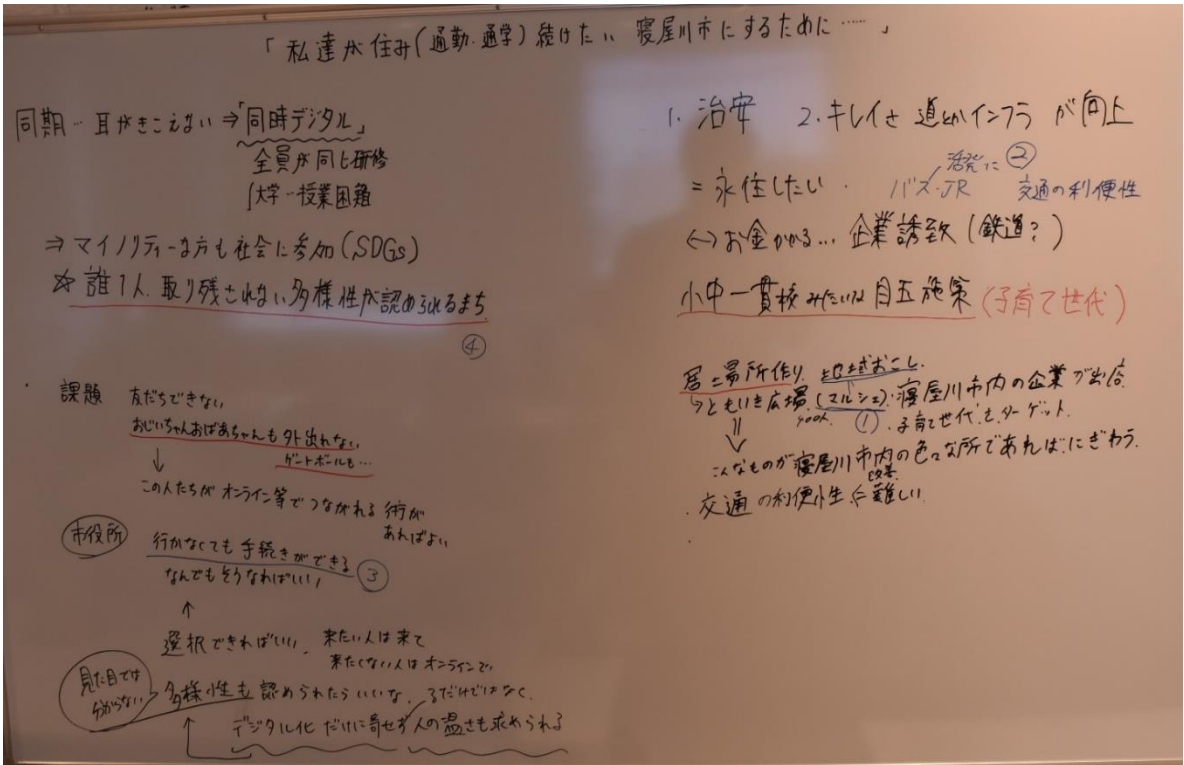
2 各テーブルの意見記録（ホワイトボード写真）

■ Aグループ

第1ピリオド ～現在や近い未来の社会課題を共有しよう～

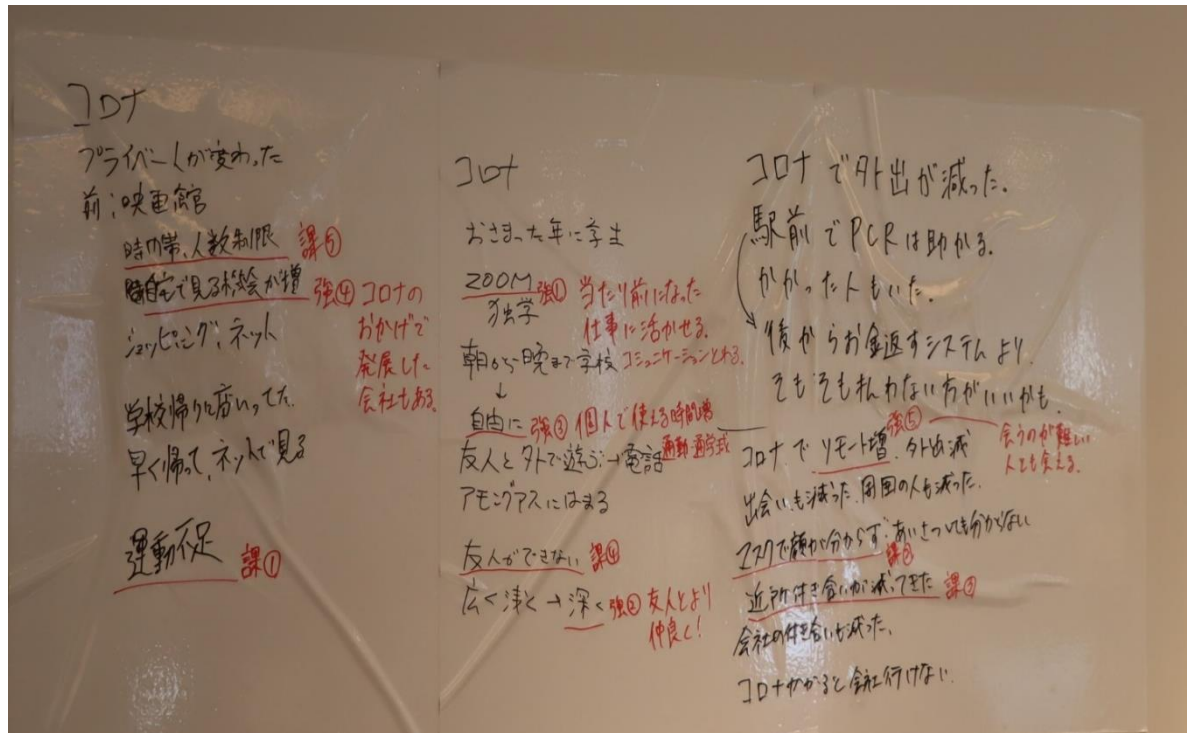


第2ピリオド ～私たちが住み（働き、通い）続けたい寝屋川市にするために～

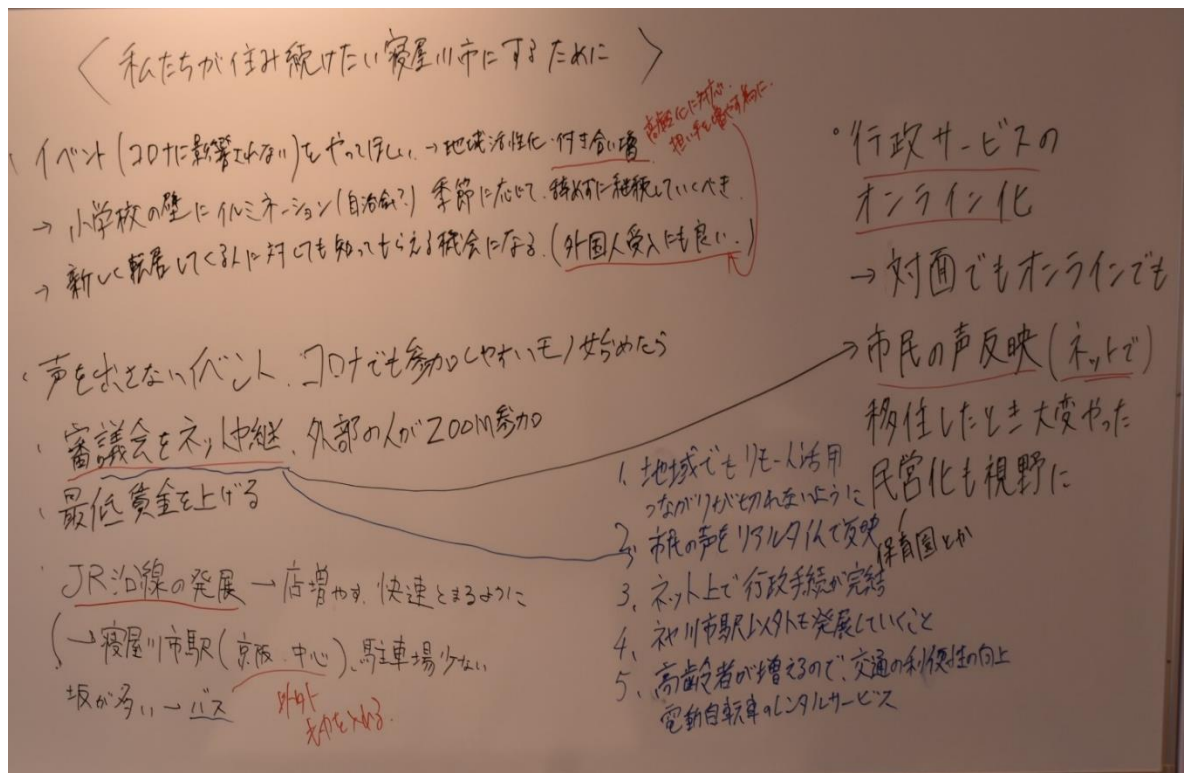


■ Bグループ

第1ピリオド ~現在や近い未来の社会課題を共有しよう~

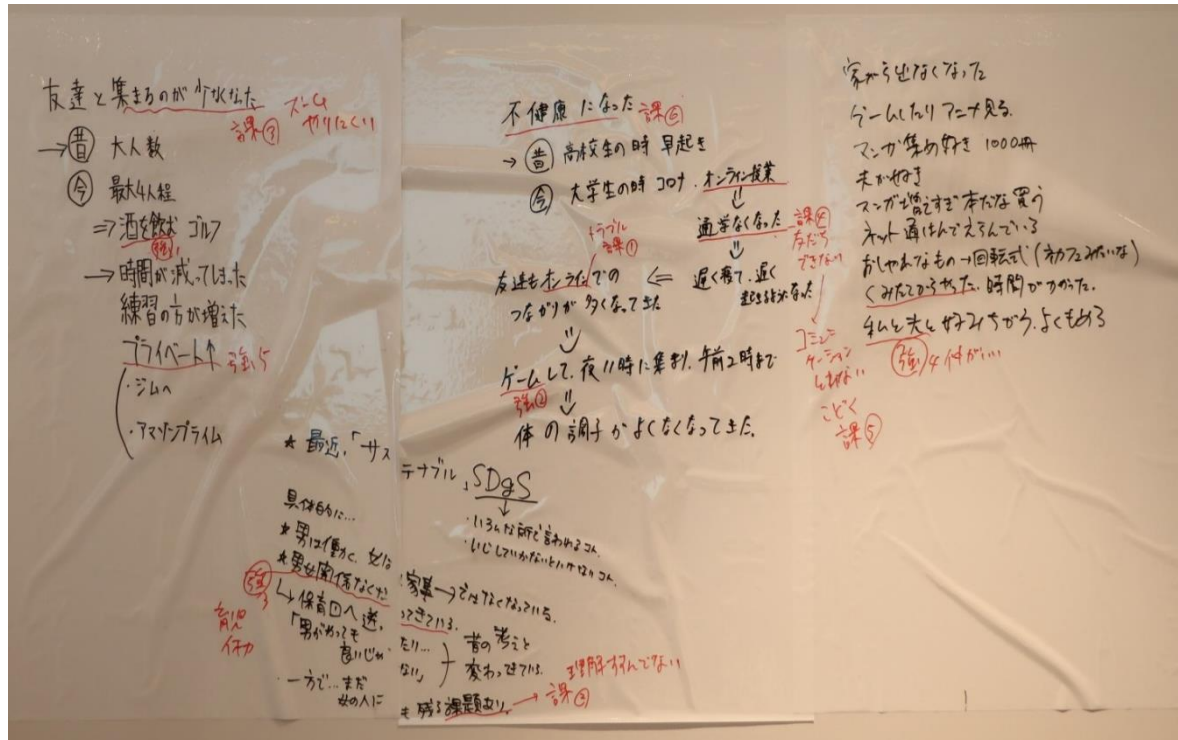


第2ピリオド ~私たちが住み(働き、通い)続けたい寝屋川市にするために~

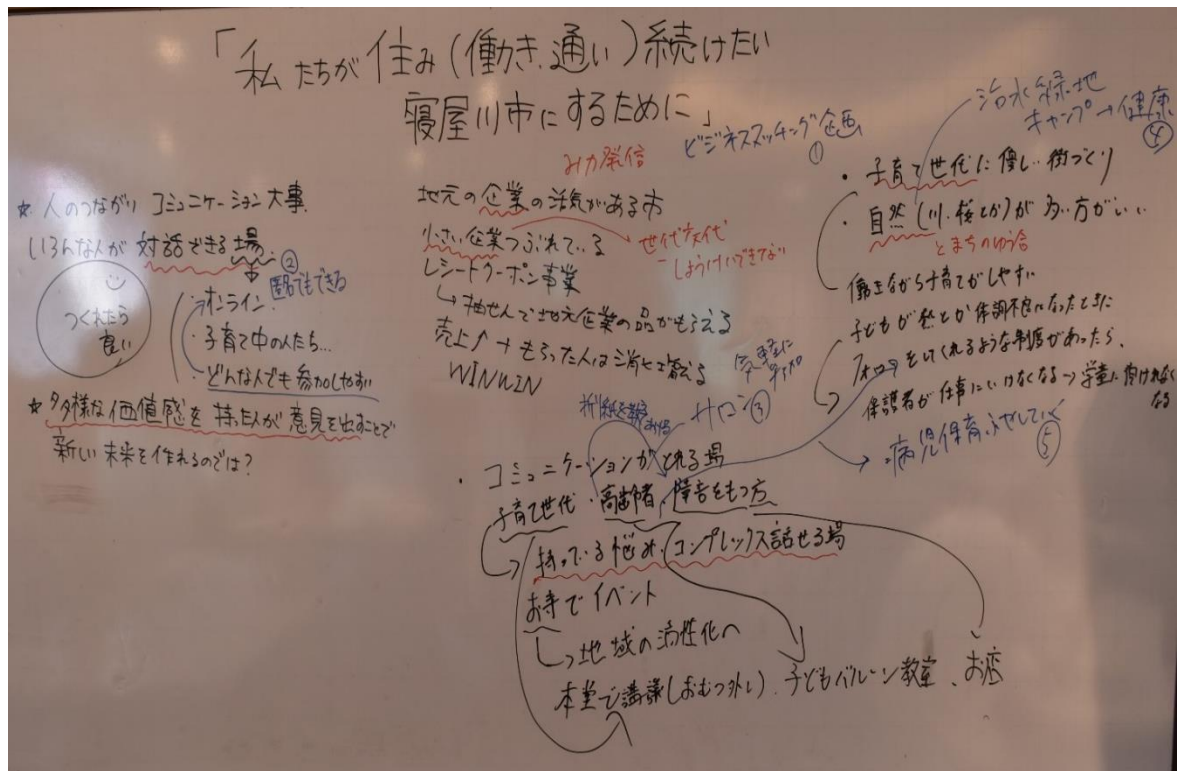


■ Dグループ

第1ピリオド ~現在や近い未来の社会課題を共有しよう~



第2ピリオド ~私たちが住み(働き、通い)続けたい寝屋川市にするために~



wakamono mirai cafe
若者未来カフェ

5月28日(土)14時

場所：市立中央図書館 マルチルーム
(アドバンスねやがわ1号館4階)

参加者募集

「想い」は「声」に
出さなきゃ伝わらない！

「もっとこんなマチになればいいのに…」。
若者の皆さん。そんなふうに思ったことは、ありませんか？
その「想い」は、未来を創る原点であり、とても価値のあるもの
です。
でも、「想い」は「声」に出さないと人に伝わらないことが多いの
も事実。
あなたの「想い」を聞かせてください。若者同士で語り合っ
てください。
若者の力で、望む未来を創っていきましょう！

本格的なコーヒーや紅茶などをご用意して、お待ちしております。

問 寝屋川市経営企画部企画一課 ☎ 072-825-2016

寝屋川 若者未来カフェ 検索

詳しくは、市ホームページをご覧ください

寝屋川市
NEYAGAWA CITY



※ 写真撮影時のみマスクを外しています。

